



1/15 (日) 身近に伝統芸能を堪能

普段は国立劇場などでしか観られない「組踊」を、市民に身近な場所に向いて、鑑賞の機会を提供し、伝統芸能普及や地域交流を深めることを目的に、「初春や 村まわり組踊」が初開催され、その第1回目が西原公民館で行われました。

同イベントでは、組踊の解説が行われた後、「浦添わかまち会」による組踊「執心鐘入」が披露されました。来場者は「組踊は初めてだったが、面白かった。大きな舞台よりも近くで見れたので良かった」と話しました。

また、このイベントは2月に沢岬公民館、浦添ニュータウン公民館でも開催されました。



当山小男子ハンドボールクラブ



浦城小女子ハンドボールクラブ

1/19 (木) ハンド王国の子ども達 強し!

昨年12月に開催された、「第32回九州小学生親善ハンドボール大会」で優勝した、当山小男子と浦城小女子のハンドボールクラブの児童が、その報告のため、市長表敬をしました。

当山小男子は、決勝で神森小との県勢対決を制し、12年ぶりの優勝を果たしました。また、浦城小女子は、今大会を2年連続で優勝し、7月の全国大会優勝に引き続きその強さを示しました。

選手たちは、「予選は硬くなり、本来のプレーができずに苦しかった」「沖縄のチームに勝った後、そのチームのためにも何とか優勝したかった」と感想を話しました。

また、市長は、「ハンドボール王国の子ども達は、その王国宣言とおりの活躍をしているのですばらしい。とても誇りに思います」と述べました。



1/26 (木) 給食 大好き!

毎年1月24日から30日までの「全国学校給食週間」に合わせ、児童生徒と触れ合いながら学校給食の状況を知るため、市長、教育長らが港川小学校を訪れ、給食交流会を行いました。

この日のメニューは、あわごはんや琉球料理の「チムシンジ」などで、また一部のクラスでは琉球漆器の食器が使用されました。

市長、教育長が会食した1年生のクラスでは、子どもたちは最初は緊張した様子でしたが、次第に和やかな雰囲気になり、楽しい時間を過ごしました。

また、「給食が大好き」と言う児童が多く、完食する姿が多く見られました。



上間優美さん

2/8 (水) 輝くてだこ市民賞 第9号表彰

全国で1万9265点の応募があった「第25回感動作文コンクール」で、上間優美さん(仲西中2年生)の「素直になれなくて」が文部科学大臣賞(1位相当)に選ばれ、その功績を称え、本市の「輝くてだこ市民賞」が授与されました。

上間さんは、「この作品は、昭和の時代から我が家で受け継がれてきた親子のコミュニケーションを、現代の子ども達に伝えたいと思い書きました。大臣賞受賞はとても驚いたけど嬉しかった。これからも文武両道を目指して頑張ります」と話しました。



1/29 (日) おもろを読み 浦添の歴史にふれる

神にささげる歌、神への言葉として考えられている「おもろ」について考える市民歴史講演会「古の浦添を紐解く『おもろ』」が、市ハーモニーセンターで開催されました。

これは、首里王府によってまとめられた「おもろさうし」の中に収められている浦添に関する「おもろ」を紹介しながら、浦添の歴史について学ぼうと、県立芸術大学の波照間永吉教授を講師に迎え、行われたものです。

参加者は、「おもろは、地域の事が詳しく述べられていると初めて知り、勉強になりました」と感想を話しました。

2/7 (火) 浦添市・JICA 図書館連携協定

浦添市立図書館とJICA沖縄国際センター図書資料室の所蔵資料等の有効的な活用を図ろうと、両者の連携協力に関する協定手交式が市役所で開催されました。

これは、「国際性豊かな文化都市」を目指す市が、世界各国の研修員が集まるJICA沖縄に連携を提案したもので、この協定により、市立図書館の約29万点の資料と、JICA沖縄図書資料室にある国際協力や移民関係の資料約3万点の資料が相互貸借されるほか、資料の収集や各種イベント企画・実施などへの協力、浦添市移民史編集刊行事業への協力などが予定されています。